

平成 30 年度(2018 年度)研究業績

1. 研究発表等

No	発表者	発表課題名	発表学会等	年月
1	中島正明・浦田貴子・伊東寛史・中野裕一郎	トウキの育苗方法の違いが収量に及ぼす影響	園芸学会九州支部 研究集録 第26号:37	2018年9月
2	浦田貴子・中島正明・伊東寛史・中野裕一郎	冬どりタマネギ夏育苗法による作期拡大(第1報) 数品種を用いた定植時期の違いと収量	園芸学会九州支部 研究集録 第26号:65	2018年9月
3	中野裕一郎・伊東寛史・中島正明・浦田貴子	四季成り性イチゴ‘すずあかね’における栽培槽と冷却方法の違いが収量等に及ぼす影響	園芸学会九州支部 研究集録 第26号:60	2018年9月
4	田代暢哉・菖蒲信一郎・正司和之・中山伸一・松尾洋一	タマネギべと病全身感染株の発生抑制に有効な殺菌剤	日本農薬学会第43回大会講演要旨集:142	2018年5月
5	石井英夫・Stammler, G.・田代暢哉	国内産タマネギべと病菌及びびレタスべと病菌からの <i>CesA3</i> 遺伝子の検出とシーケンス解析	日本植物病理学会 報第85巻:58	2018年9月
6	田代暢哉・川上顕・高木里歩・浦川綾子・中山伸一・宮崎尚子・園田亮一・藤原和樹・田中義樹・宮坂 篤・草場基章	タマネギべと病の全身発病症状の再現と病斑形成の規則性	日本植物病理学会 報第85巻:74	2018年9月
7	渡邊幸子・菖蒲信一郎・福永正照・中島寿亀・田代暢哉	べと病多発生土壌で育成したタマネギ幼苗におけるべと病菌卵胞子の形成	日本植物病理学会 報第85巻:93	2018年11月
8	田代暢哉・浦川綾子・園田亮一・川上顕・中山伸一・宮崎尚子・藤原和樹・田中義樹・宮坂 篤	タマネギべと病菌の分生子発芽に及ぼす温度, pH, 光の影響	日本植物病理学会 報第85巻:93-94	2018年11月
9	正司和之・田代暢哉・浦田貴子・中山伸一・宮崎尚子・浦川綾子・松尾洋一・田中義樹	マルチ栽培によるタマネギべと病一次感染発病株の発生抑制と収量向上	九州病害虫研究会 第97回研究発表会講演要旨(病害):病7	2019年1月

10	田代暢哉・菖蒲信一郎・渡邊幸子・中山伸一・宮崎尚子・浦川綾子・安河内千鶴・宮口邦子・川内孝太・田中義樹	タマネギベト病の二次感染予防に用いられる殺菌剤へ加用した各種展着剤の発病抑制効果に及ぼす影響	日本農薬学会第44回大会講演要旨集:80	2019年3月
11	田代暢哉・浦川綾子・中山伸一・宮崎尚子・川内孝太・田中義樹・草場基章	タマネギベト病菌の感染は葉鞘分岐部で生じ、病斑は連続した葉位の葉身上に規則的に離れて形成される	平成31年度日本植物病理学会大会講演要旨予稿集:54	2019年3月
12	川内孝太・田代暢哉・田中義樹	ハウスマカンにおけるスワルスキーカブリダニを導入したミカンハダニ防除体系の検討	第63回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集159	2019年3月

2. 刊行物

No.	刊行物名	年月
1	平成29年度業務年報	2018年5月

3. 論文・著書・解説

No.	著者	題名	掲載誌	年月
1	Tashiro N. Urakawa A. Shoji K. Matsuo Y. Sato T.	Postharvest anthracnose on Satsuma mandarin orange caused by <i>Colletotrichum fioriniae</i>	Journal of General Plant Pathology 84 : 381-385	2018年9月
2	中島正明	サフランの産地復活を目指して	佐賀の野菜3月号 pp. 22-24	2019年3月
3	川内孝太	<w天>防除体系構築のポイント・施設ミカン	新果樹のハダニ防除マニュアル p32-35	2019年3月

4. 公表した研究成果情報

平成30年度に公表した研究成果情報は、薬用作物1題、病害虫3題、畜産関係1題の計5題である。これらの成果情報については各種研修会等で紹介するとともにホームページにも掲載し、周知に努めている。

No.	情報名	担当
1	上場産サフランは、暗黒下の2段階低温処理で開花日が1ヶ月以上早くなる	畑作・野菜
2	米ぬかを土壌混和し、灌水することでタマネギベト病一次伝染を抑制できる	畜産・果樹
3	傾斜畑における灌水土壌還元処理によるタマネギ乾腐病の抑制	畜産・果樹
4	夏播き冬どりタマネギの軟腐病は育苗期に殺菌剤を散布することで抑制できる	畜産・果樹
5	肥育前期粗飼料多給により県産種雄牛候補「誠華山」「糸百合」産子の枝肉は優れる	畜産・果樹